

平成28年度学校評価報告書(自己評価)

本年度の重点目標
 ○[重点目標1]やさしく思いやりのある子どもを育てる(徳を育てる)
 ○[重点目標2]ちえをはたらかせ進んで学ぶ子どもを育てる(知恵を育てる)

	評価項目	取組の状況	評価	成果及び改善方策
重点目標1	＜生徒指導の充実＞児童一人一人の理解に努め、好ましい人間関係を育てる生徒指導の充実に努める。①積極的な児童理解を深める、児童との良い関係を築く。②保護者との連携・協力の体制を築く。③児童と児童の間でいじめや問題事象がおこったときは、児童の話を聴き取り、公平な指導を行う。④児童と共感的な指導を行う。	校内で共通理解が必要な児童に対しては、職員会議等で全員で情報を共有している。月に一度「心のアンケート」を実施し子どもの心の悩みの聞き取り・いじめに関する調査をしている。保護者アンケートでは、「子どもが楽しい学校生活を送っている」の回答は96%であった。	B	「心のアンケート」を毎月実施することにより、児童の気持ちの汲み取りやすくなった。いじめ問題の発見ができ、学級全体および関係児童へ指導をすることができた。日常的に児童理解に努め、問題事象の発生には公平に児童の話を聴いている。
	＜道徳教育の充実＞道徳教育の積極的な推進を行い、「心の教育」の充実に努める。①道徳の時間の特性を理解し、児童の道徳的心情を育み、道徳的判断力や実践力の育成に努める。②「私たちの道徳」で理解を深め、道徳の授業の充実に努める。③道徳の授業と各教科等の関連を図りながら全体指導計画に基づいて指導する。	各教科等との関連を密にした年間計画を基に、道徳の時間の確保を行った。道徳通信、交流ノート、保護者参加等の取り入れを積極的に行った学年も見られた。	B	学校生活全体を通して「心の教育」を推進することができた。しかし、道徳の時間を通して道徳的判断力や実践力の育成には課題があり、学級ごとに取り組みに差が見られる。また、道徳ノートや副読本等の活用や保護者への情報発信にも学級ごとに取り組みの差が見られる。年間を通して道徳の時間の確実な確保や教科等との関連を図る。
	＜特別支援教育の推進＞児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行うと共に、支援学級との交流を積極的に行う。①特別支援校内委員会を活用すると共に、学級の児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導を行う。②交流学習を進めると共に、学級における児童の行動特性を把握し、児童の理解と支援を行う。③特別支援学級の児童理解に努め、交流学習を進める。	特別支援教育校内委員会を必要に応じて開催し、児童の実態把握と理解、支援のありかたを検討している。必要に応じて関係機関と連携しながら一人一人の教育的ニーズに応じて特別支援教育を推進してきた。学期に全職員で情報共有する場を設けている。また、交流を積極的に推進した。	B	特別な支援を要する児童が、よりよく成長するための支援のあり方、将来の展望を保護者と共有しながら校内委員会を数多く開催した。次年度は、さらに研修を重ね、特別支援についての基礎的・基本的な考え方や困り感のある児童への効果的な指導・支援のありかたを校内研修として進める。
重点目標2	＜学力の充実＞日々の授業をふり返り、適切な学習評価を行い、指導に生かす。①学力調査結果等を活用すると共に、日常的に児童の学力状況を把握・点検し、学力の向上に努める。②児童の学習の状況をつかみ、単元の終末のテストや学習途中でのミニテスト等の結果を、指導に活用する。③繰り返し練習等を効果的に行い、一人一人の学習内容の定着を図る。④朝の自習時間や家庭学習等を活用し、学習内容の定着を図る。	学力テストを基に学力向上プランを立て、各学級で実践した。繰り返し練習等を効果的に行い、学習の定着に努めている。朝の学習の時間では、漢字タイム、計算タイム、読書や音読・暗唱に取り組んである。	C	繰り返し学習や朝の学習時間により、基本的な学習の内容の定着を図ることに努力できた。しかし、四則計算や漢字など基礎基本の学力の点にはまだ課題がある。家庭学習と授業との関連性を図りながら児童が主体的に家庭学習に取り組むようにする必要がある。一日の時間設定や週間の運用についても検討し児童の確実な学力の向上となる取組を考えていきたい。
	＜わかる授業＞授業の工夫・改善を行い、少人数指導・習熟度別指導の積極的な推進を図り、わかる授業づくりをする。①学級全体や児童一人一人の実態の傾向がわかり、積極的に授業を工夫・改善して、「わかった」「できた」と児童が実感できる授業に努める。②児童の学習の状況をつかみ、単元の終末のテストや学習途中でのミニテスト等の結果を、指導に活用する。③学習のめあてを明示し、適切な板書計画を立て学習のまとめを確実にする。	全ての学級で「めあて」を示し「まとめ」を確実に実施している。単学級である2年生、5年生、6年生を中心に算数科の少人数・習熟度別指導を計画的に行った。授業ではペアやグループでの話し合いを多く取り入れるように努力した。	B	少人数指導等や専科指導を通して、児童のつまづきを把握し個に応じた指導を計画的に実施し、児童の学習意欲につながっている。少人数指導等では、柔軟に対応するため共通理解のための話し合いの場を設け、どの児童も公平に指導を受けることができるようにしたい。児童の主体的な学びを目標とした授業づくりにより学力の向上を目指したい。また、学習とテスト時期、誤答への取組を行い確実に「わかる」「できる」と答える児童を増やしたい。
	＜国語科の授業の強化＞校内研究授業を推進し、言語的活動を取り入れた授業の工夫・改善を図る。①国語科授業の工夫・改善に努め、国語的な表現力や思考力を伸ばす。②基礎・基本の確実な定着を図り、国語的な表現力の育成に努める。③音読・暗唱の継続的な指導と図書館教育の推進。	本年度は、説明文を正確に読むことを目指して、全学級で国語科の研究授業を行った。また、国語科の授業と関連させて読書を取り上げ、単元を通して目標を設定した授業ができた。1年生では、流ちょうな読みを目指し、MIMを実施した。	B	説明的な文章の読解のために文章全体が見渡せる全文シートの活用が有効であることがわかった。八児小学校全体でこの取組ができた。また、MIMの成果が徐々に見られるようになってきている。MIMは、読み書きの学習障害のある児童に対して有効性も確認できた。次年度も1年生で継続して実施していく。
重点目標3	＜健康教育の推進と体力づくり＞児童の体力づくりに努め、健康教育の推進を積極的に行う。①体育授業の工夫・改善に努め、児童の体力・運動能力の向上を図る。②見る体育、待つ体育から、十分な運動量を確保した授業を進める。③児童は体育の時間はもちろん、休み時間も元気に運動に親しませる。	体力向上プランに沿って45分の授業の中に児童の運動量の確保を工夫している。授業の初めには体力アップのための準備体操を行った。縄跳びやマラソンカードを使い、どの児童も目標を持ち運動した。養護教諭が薬物乱用防止の指導、栄養士が、バランスのとれた食事について指導を行った。	A	体育の時間、体育的行事、昼休みの時間を通して体力の向上を図ることができ、どの学年も体力の向上が見られる。小中連携推進教員が体育科の教師であるため本校の体育科授業に大きく関与し、成果をあげた。次年度も人的な条件が揃えば本年度の成果を継続したい。保健や食育の指導も学級担任や養護教諭、栄養士と連携し児童に指導することができた。また、保護者に対して保健便りや給食だよりを適宜発信し情報発信している。
	＜安全・安心な学校づくり＞児童の安全指導や事件・事故防止に努め、安全・安心な学校づくりを行う。①日常の生活リズムを整え、健康で安全に過ごす態度と実践力を身に付けている。②健康の大切さを知らせると共に、安全な過ごし方について指導する。③健康観察を確実に行うと共に、施設・設備等については、日常的に安全面に気を配る。	地域の見守り隊による通学路の見守りをいただいている。校務員が日常的に施設の営繕を行っている。老朽化した運動場の遊具の撤去などを行った。保護者アンケートでは、「学校は地域・保護者と連携し健康や安全な学校を進めている」とする保護者95%であった。	A	地域と連携を強くして登校指導、校内安全点検の徹底と通学路の点検を継続して行う。次年度より始まる校舎の大規模改修にあわせて学校施設の安全を総点検していきたい。
	＜礼儀正しい児童の育成＞あいさつの励みや美しい言葉遣いのできる児童の育成に努める。①児童が節度ある態度で、相手に心のもったあいさつや言葉遣いのできるようになる。②児童は、場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いを指導する。③学校や地域、家庭等で、あいさつのできる児童を育てる。	本校の教職員だけでなく来校者や地域の方にも気持ちの良い挨拶ができるように児童に声掛けを行っている。保護者アンケートでは「児童は気持ちのよい挨拶ができる」と回答した保護者96%である。また、地域の方からは、よく挨拶をするという声も聞かれる。	B	校内でのあいさつに比べて、校外では十分ではないという指摘もある。また、気分によってできない児童や自分から挨拶ができない児童も見られるようである。校内外で気持ちの良い挨拶ができ、丁寧な言葉遣いのできる児童を育成する。

※評価(例) A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった